

大詠の神事カムヤリは、挂卷も畏れ、神漏岐神漏美命
托夫御心と、天御國小始給ひて、いと重祀大
御政小し有けるを皇美麻邇く藝命の。此御
國小天降坐依時小、天御國の御式小依て治
給ふと、天兒屋命天太玉命小、其御式を掌と
免て、天降し給へるは大御教の本ある事と。

我父カ代古史傳。おふび大祓詞再釋トキ。小詳トキ。予説
注シさきよシ。已。然れば古大御世トキ。予は六月十二
月廿晦日あるを更トキふもいは文事ある時を。
臨時トキふも行ひ給トキし事ふと。縣居大人。鈴屋大
人の。既トキ予開示トキし給トキするが如し。然依を後の
御世トキく小は。さ依重き御教を志。粗略トキ予れ志

給へ依り依て。世間小。禍殃トキども多加トキ。已し事
は。甚も畏く。いと悲トキき事れ極トキみふり志を。
靈幸ふ神れ御心あるりも近世トキ予至りては。
彼方カチタ此方コチタの神社トキ予て。物にる事始まトキ。已トキ。庶トキ
人も心ある際を。其場小集トキひ。又自ら行ひも
志て。方の枉事罪穢れを拂ひ清免トキ。初トキ。次トキ

此事に盛了了成行べく所思るは治まれる
大御代乃。堅磐子常磐小。榮え坐べき祥小て。
いと尊知事小こそ。斯て此大被詞の世より比
れく尊く愛さ知物ふ依事ハ。今更小云傍く
も非だ此一帖を。世より有る本に非訓ある哉。
大人等のみ正されし依が中小一二。我が

父に訓直されしるも有るを。下總人永井年尋。
嶋田定尋らら。後米志き心す父に敏く秘記
らきし。天津祝詞と共小乞出してかめ板小
彫志免さるは。彼大御教小報い奉れる理り
て。最おむらし。然を何れと。天津祝詞の由志
由を知らむ人ハ。其出さ依原を怪み思ふ

も有るむの。其を父は殊小著されとる。天津
祝詞考と云物子見ては、其尊如原の由縁の
いと詳不知れあむ物を故その由を一くふ
にかくれ事。

天保二年十一月

飛鳥ふれ鐵胤

○大祓詞正訓

ミナツキツコモリノヒノオホバラヒ
六月晦大祓 シハ 十二月 ハス 准之 カクコ

ウコナハレル 集侍親王諸王諸臣百官人等 ミコ タチ オホキミ タチ オミ タル コノツカサノヒト タチ

モロハキコシメセトノル
諸聞食止宜

天皇朝廷尔仕奉雷比禮挂伴

男手襁挂伴男敷負伴男劍佩

伴男伴男能八十伴男乎始氏

官官尔仕奉雷人等乃過犯家

牟雜雜罪乎今年六月晦之大

祓尔祓給比清給事乎諸聞食

止宜

高天原尔神雷坐皇親神漏岐神

漏美乃命以氏。八百萬神等乎。神

集集賜比。神議議賜氏。我皇御孫

之命波。豐葦原乃水穗之國乎。安

國止平久所知食止。事依奉岐如

此依志奉志。國中尔。荒振神等乎

波。神問志。尔問志。賜神掃尔掃賜

比氏。語問志。磐根樹立草之垣葉

乎。毛語止。氏天之磐座放天之八

重雲乎伊頭乃千別尔千别氏天

降依左志奉支如此久依左志奉

志四方之囷中登大倭日高見之

囷乎安囷止定奉氏下津磐根尔

宮柱太敷立高天原尔千木高知

氏皇御孫之命乃美頭乃御舍仕

奉氏天之御蔭日之御蔭止隱坐

氏安囷止平氣久所知食武囷中

尔。ニ。ナリイデムアマノマスヒトラガ。アミチオカシケ成出武天之益人等我過犯家

牟ム。クサクノツミゴトハアマツツミト。アハナチ。ミツ雜雜罪事波天津罪止畔放溝

埋ウメ。ヒ。ハナチ。シキマキ。シシザシイキハギサカハギ。クソヘ桶放頻蒔串刺生剝逆剝尿戸

許許太夕乃罪乎天津罪止法別

氣ケ。テ。クニツツミトハ。イキハダタチシニハダタチ氏。因津罪止ハ生膚斷死膚斷

白人胡久美己母犯罪己子犯罪

母與子犯罪子與母犯罪畜犯罪

昆虫乃災高津神乃災高津鳥乃

災イハヒケモノ畜ノ什タ志フ。蠱物シ爲マシ罪モノ。許許セル太ツ久ニ乃コ。

罪出武ツ。如此出波イ。天津宮事ハ以ニ氏モ。

大中臣オホナカトミ天津金木アマツカナギ乎ヲ。本打切末打モトウチキリスエウチ。

断氏タチテ。千座置座チクラノオキグラ尔ニ置足オキタラ波志ハシ氏テ。天

津菅曾乎ツスガノヲ。本刈断末刈切モトカリタチスエカリキリ氏テ。八針ヤハリ。

尔取辟氏ニトリサキテ。天津祝词アマツノリト乃太祝词事ノフトノリトゴト。

乎宣礼ヲノレ。如此久乃良波カクノラバ。天津神波アマツカミハ。

天磐门乎推披アマノイハトヲオシヒラキ氏テ。天之八重雲アメノヤハグモ乎ヲ。

伊頭乃千別尔千别氏所聞食武。

国津神波高山之末短山之末尔。

上坐氏高山之伊穗理短山之伊。

穗理乎搔别氏所聞食武如此所。

聞食氏波皇御孫之命乃朝廷乎。

始氏天下四方国尔波罪止云布。

罪波不在止科戸之風乃天之八。

重雲乎吹故事之如久朝之御震。

夕之御震乎。朝風夕風乃吹掃事

之如久。大津邊尔居大船乎。舳解

放艦解放氏。大海原尔押故事之

如久。彼方之繁木本乎。燒鎌乃敏

鎌以氏打掃事之如久。遺罪波不

在止。祓給比清給事乎。高山末短

山之末與理。佐久那太理尔落多

支都速川能瀬坐須瀬織津比咩

止云神大海原尔持出奈武如此

持出往波荒鹽之鹽乃八百道乃

八鹽道之鹽乃八百會尔座須速

開都比咩止云神持可可吞氏武

如此久可可吞氏波氣吹戸坐須

氣吹戸主止云神根圀底之圀尔

氣吹放氏牟如此久氣吹放氏波

根圀底之圀尔坐速佐須良比咩

登トイフカミモチサスラ云神持佐須良比失ヒ氏牟テ如此カ

久クウシテ失バ氏ス波ラ天皇我ガ朝廷ニ尔ニ仕奉ツ雷ル

官官人等乎始ツカサグノヒトモ氏ハジメ天下四方アマノシタヨモ尔ハ波ハ

自今日始ケヲヨリ氏ハジメ罪止ツミ云布罪波不在トイフツミハアラジ

止ト高天原尔耳振立タカマノハラニミハフリ聞物止タテノキクモノト馬牽ウマヒキ

立タテ氏ハ今年六月晦日夕日コトシノミナヅキノツゴモリノヒノユフヒ之降乃ノクダチノ

大祓尔祓给比清给事乎オホハラヒニハラヒタマヒ諸聞食キヨメタマフコトヲモロクキコシメセ

止ト宣ノル

四圍ヨクニウラベドモオホカハチト部等。大川道ニモチマカリデ尔持退出
氏テハラヒヤント祓却止宣ル。

○天津祝詞

高天原タカマノハラニ尔神カムヅメリマ留坐須スカム神カム魯岐神ロキカム魯

美乃命ミノミコトモチ以氏テスメ皇御祖神ミヤカミ伊邪那イザナ岐ギ

命ミコトツク筑紫乃日向ヒムカ能タカナ橘乃小戸ラド乃阿ア

波岐原ハギハラニ尔御ミ禊祓メギハラ比ヒ給布タマフ時トキ尔ニ生ア

坐マセ留ル祓戸ハラヒド乃大神等オホカミタチモロク諸乃ノ枉マカ事コト罪ツミ

穢ケガレ乎ヲ。拂ハラ比ヒ。賜タマ幣ヘ。清キヨ米メ。賜タマ閑ヘ。登ト申マ須ス。
 事コト能ノ由ヨシ乎ヲ。天アマ津ツ神カミ。罔クニ津ツ神カミ。八ヤ百ホ萬ヨロシ。
 乃ノ神カミ等タチ共トモ。天アマ之ノ斑フチ馬ゴマ。能シ耳ミミ振フリ立タテ。
 氏テ聞キ食コシ世セ。登ト恐カレ美コシ。恐カレ美コシ。白マ須ラス。

世の神職等此常ふ誦ふる中臣祓と云物ハ事知らぬはら
 ちら入此此大祓詞を己が好くあかかし。書改えて用ひ
 來れるふて眞マコトの理コトは叶叶はざ由よしを故大人等の辨へ置れ
 るあるが如し。然らば神職等此各々其仕へ奉る神此御前ふ
 謂イハレ由よし。天下泰平の御祈禱ミイノリを申さむらう。如何イカニと云ふ古
 例子依て新カキトふ書整へてせよ申はべき。言コトはくも更ふれど。

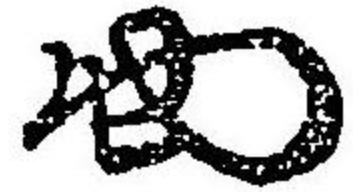
其^ナ初^{ハジメ}学^{ガク}の輩^{タビ}此^{コノ}容^{ヤス}易^カく知^ルし得^ルべき業^ノ子^ノ非^ズざれば已^ハい^テ
と敏^シくよ^ク思^ヒひ日^ニこれ^ノ事^ヲも有^ルれど暇^ナく^テ過^ルる^ヲ
此^ノ比^ニ三^ノ河^ノ國^ノの^ノ人^トよ^ク次^ニある^一ひ^ラを^おこ^して^おま^けふ^筆加^へ
て^そと^云物^ヲを^見れ^ばま^まに^おま^けふ^心を^して^おま^けふ^筆加^へ
叶^ひて^げふ^然る^事も^おま^けふ^上ふ^己が^勞れ^をし^も助^けり^成せ^候
ふ^こそ^をは^く情^クも^思ゆる^俟て^速く^筆加^へし^加へ^やぐ^て
爰^もも^寫し^留めて^己が^教を受^る徒^小傳^{ふる}事[■]れ^しぬ

欠

MISSING

然ハあれど此詞を何方イツカも用ふべく簡易コトスズクの書くる物あれば。
飽うぬ事ぬむ多の依る。然と臨時ツツの願事ネキコトは更にも云
を更常此詞字も心何らむ人ハ長くも美しくも好みく小。
心ゆくべく書加て一向ヒトコの神祇ミコトあちれ愛聞し召給はむ
やうふこそ有らぬ布しれ故カは此由をこの祝詞のを志書
かてら斯くぬむ時ハ天保の三年と云年ハ八月あらば

平阿曾美篤胤



○諸社祝詞文例

此乃處尔鎮座坐須挂卷毛畏伎

大神能守頭乃御前尔忌麻波理

淨麻波理氏慎美敬比畏美畏美

毛白須皇大御因波二柱御祖乃

大御神乃生坐留大御因尔志在

礼濤大御神等乃御道波千代万

世尔無極久天地登共尔榮志米

給波牟事波申須毛更那里天津

日嗣所知食須皇御孫尊乃大御

世乎。堅磐尔常磐尔齋奉里茂御

代乃足志御世耳幸幣给比。親王

等王等臣等。百官人等乎。長久平

久守给比氏。天皇我朝廷尔伊迦

志耶久波延乃如久立榮衣令仕

奉给比。是国能縣乃政廳尔。天皇

乃大御手代斗。蒼生乎治米政。古
知給布。縣主乎始米。司々乃人々
袁。日尔異尔榮志米。給比氏子乃
益人等。彌益々耳。賑比榮志米給

比四方乃。圀能青人草等。種々乃

禍無久取。作五穀乎。始米氏作里

登作留物等乎。惡風荒水尔不相

給八束穗乃。茂穗尔成幸幣給比

姓名イヘヌチノ家内モロビト能諸人ウカラヤカフモロクノ親族ワザハヒ諸乃災難

無久ナク守幸モリサキハヘ幣給比タマロ漏落牟事乎婆モレオチムコトヲバ

神直日大直日耳見直志カムナホビオホナホビニニ聞直志ナホシキナホシ

坐氏夜乃守日乃守尔護給比矜マシテヨノモリヒノモリニマモリタマヒメシ

給布事乎尊美タマフコトヲタマフミ喜出美恐美ウレシミカシミカレコシ

毛謝奉良久登申須モマシマツラクダシス

此を去し天保三年と云し年小三河國ある羽田野
敬雄主より其辺の神職等の其仕へ奉依社く小白尺詞
亦依ぐ猶言くらげ思也る海しくも有る此言をへて

よと乞^{コト}か^{コト}け^{コト}れ^{コト}あるを我父はきくか^{コト}し^{コト}二筆さし加^{コト}予給
予るれ也然る我彼主^{コト}ち^{コト}ち^{コト}て櫻木小もれして同志の
人^{コト}く^{コト}小贈ら^{コト}け^{コト}を此方小も多くを受てよ^{コト}ち^{コト}く^{コト}小施^{コト}
し來つる我^{コト}猶^{コト}飽^{コト}を^{コト}度^{コト}い^{コト}此折本の末小^{コト}駢^{コト}へ^{コト}て最^{コト}や^{コト}と
れき大祓詞と共^{コト}よ^{コト}冷^{コト}く^{コト}世^{コト}ふ^{コト}弘^{コト}米^{コト}む^{コト}を^{コト}い^{コト}ふ^{コト}と敬雄^{コト}也^{コト}し^{コト}小
事^{コト}議^{コト}り^{コト}を^{コト}原^{コト}を^{コト}け^{コト}小^{コト}後^{コト}は^{コト}あ^{コト}く^{コト}講^{コト}ひ^{コト}が^{コト}け^{コト}ち^{コト}て^{コト}も^{コト}備^{コト}く^{コト}小^{コト}斯^{コト}れ
はもれしつ^{コト}扱^{コト}ひ^{コト}の^{コト}割^{コト}れ^{コト}名^{コト}を^{コト}も^{コト}ち^{コト}は^{コト}あ^{コト}く^{コト}祝^{コト}詞^{コト}と^{コト}れ^{コト}と^{コト}稱^{コト}れ

ある我^{コト}己^{コト}今^{コト}加^{コト}予^{コト}小^{コト}諸社祝詞文例と^{コト}ハ^{コト}名^{コト}付^{コト}ぬ^{コト}さ^{コト}る^{コト}ハ^{コト}其^{コト}拜^{コト}み
奉^{コト}流^{コト}神^{コト}の^{コト}御^{コト}名^{コト}傳^{コト}へ^{コト}其^{コト}祭^{コト}主^{コト}の^{コト}名^{コト}を^{コト}書^{コト}加^{コト}へ^{コト}て孰^{コト}の^{コト}御^{コト}社^{コト}も^{コト}
用^{コト}ふ^{コト}べき^{コト}詞^{コト}亦^{コト}れ^{コト}バ^{コト}れ^{コト}也^{コト}時^{コト}ハ^{コト}嘉^{コト}永^{コト}廿^{コト}二^{コト}年^{コト}と^{コト}云^{コト}年^{コト}廿^{コト}九^{コト}月^{コト}

氣吹舎二世 平鐵胤記

○大祓詞正訓

天保二年辛卯十一月刻成
明治元年戊辰十月再板

附天津祝詞 同 六年癸酉三月又改刻

○太元圖說

挂軸料 此をいし文政三年に彫刻成ては
有れど摩滅せる故に大に美しく
石摺 改刻せられぬ所あり

○學神号

同 右

去し文政二年に彫刻せられしもの有りてこ
こびり又延毘古神及び故大人の御名を加へ
て大きく美しく彫り改めしものあり

明治十三年十二月九日翻刻御届
明治十四年一月 出版

大阪府平民

山本松之祐

東成郡天王寺村八百九十一番地

出版人



